

2011年
1月4日号

『日経ビジネスAssocie』に掲載!

プロのライター、編集者、絶賛の1冊!

文章を書く重要性は理解していても、「文章は商品だ」という意識を持って書いている人は少ないだろう。しかし、今の時代はプロの作家や記者ならずとも、ホームページやブログ、SNSの掲示板などを通じて、不特定多数の相手に自分の文章が読まれる機会が増えている。メールでも大勢の人に同報配信すれば立派な「ミニコミ誌」とも言える。文章力がビジネスパーソンの評価を左右する割合は高まっている。

著者はプロのライターとしての経験から、文章上達のためには「技術」よりも「心得」が大切だと訴える。例えば、

読み手は、書き手の小手先のテクニックで文章のうまい下手を判断しているのではなく、読む側の興味や関心、テーマに対する知識がどれくらいあるのか、どこまでおもんばかってくれているのかを重視しているという。聞けば当たり前だが、自ら書く時にそうした意識で臨んでる人はわずかだろう。

良文は「聞き上手」から生まれるともいい、プロとして実践している取材やインタビューの心得を明かす。文章上達の指南書としてはもちろん、コミュニケーション全般に生かせる助言に満ちた1冊だ。

書いて生きていく

プロ文章論

上阪徹



40万部突破の「プロ論」他、ベストセラーを続々と手がける著者が明かす、生きた文章論。人に会い、人に聞き、人に伝える。テクニックを超えたコミュニケーションの心構え。

それで、本当に伝わりませんか?

『書いて生きていく
プロ文章論』

上阪 徹著
ミシマ社
1680円

40万部のベストセラー「プロ論」を手がけたライターの著者が、誰にでも実践できる「書くための心得」をまとめた書。良い文章を書くには技術ではなく、人間性が必要だと言う。取材テクニックも披露。

テクニックの前に「心得」が大切